

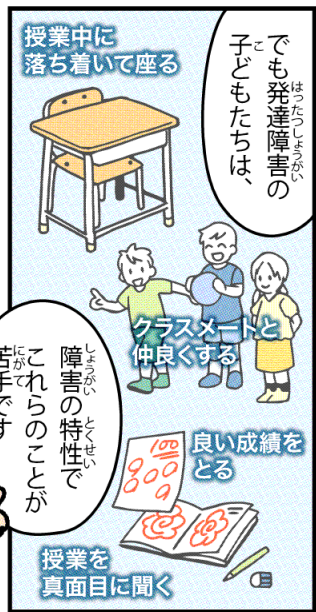
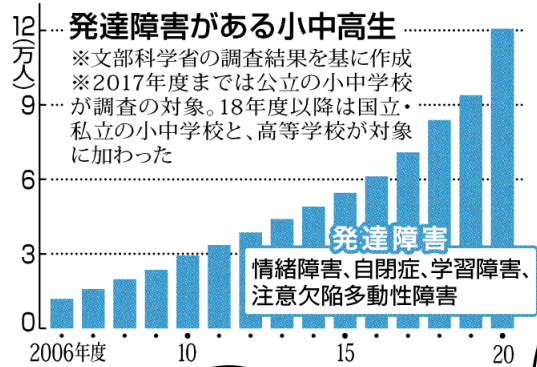
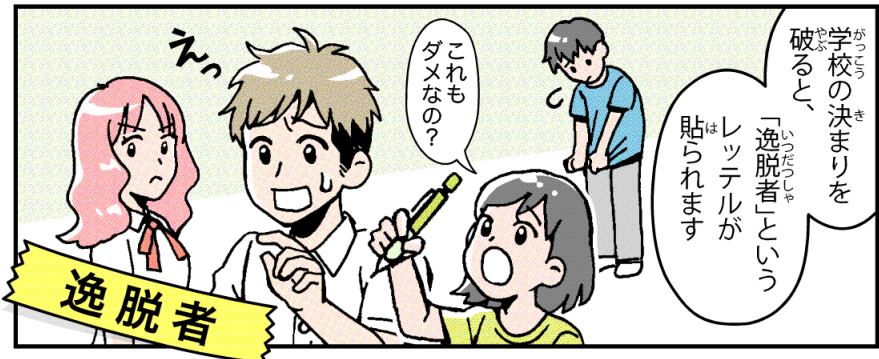
校則

日高 優介さん

鹿児島大学法文学部付属
「鹿児島大学の近現代」教育研究センター 特任助教

みなさんは「社会学」という言葉を知っていますか。学校で習う「社会学」と関係すると思う方もいるかもしれませんが、少し違います。社会学は、私たちの暮らす「社会」全てを研究の対象として、どのような仕組みで成り立っているかについて考えます。学校を例に考えてみましょう。社会学では「ラベリング理論」という考え方があります。簡単にいえば「レッテルを貼る」ことです。学校にはルールがあります。校則のように文字に書かれている規則もあれば、「守るべきだ」として先生や皆さんの間に暗黙のうちに共有されている決まりごともあります。「小学生らしさ」や「中学生らしさ」といった謎の基準も、暗黙のルールに当てはまるのではないのでしょうか。こうしたことを守らないと「悪いこと」とされ、その人には「逸脱者(問題)

時代に合わせて再考も



イラスト：きたむら まさみ

「社会学」は、私たちの暮らす「社会」全てを研究の対象として、どのような仕組みで成り立っているかについて考えます。学校を例に考えてみましょう。社会学では「ラベリング理論」という考え方があります。簡単にいえば「レッテルを貼る」ことです。学校にはルールがあります。校則のように文字に書かれている規則もあれば、「守るべきだ」として先生や皆さんの間に暗黙のうちに共有されている決まりごともあります。「小学生らしさ」や「中学生らしさ」といった謎の基準も、暗黙のルールに当てはまるのではないのでしょうか。こうしたことを守らないと「悪いこと」とされ、その人には「逸脱者(問題)



履いてはいけない」「シャープペンシルを使っちゃいけない」「決められた色の下着しか着てはいけない」「髪の毛を染めたり、パーマをかけたったりしてはいけない」「ツーブロック(髪型)は禁止」といった決まりを破れば、逸脱者になってしまうのです。しかし多くの場合、これらの学校のルールは一般社

会には当てはまりません。私は大学で働いています。私がシャープペンシルを使っていますし、好きな色の下着を着けています。つま

{?クイズ}

「ラベリング理論」を提唱した社会学者ハワード・S・ベッカー(1928年生まれ)は、次のどの職業に関する調査研究から、この理論を考え出したのでしょうか。

- ①ミュージシャン
- ②プロ野球選手
- ③医者

【正解】①のミュージシャンです。プロのピアニストでもあったベッカーは、自分自身も音楽家として活動しながら、ジャズのミュージシャンに共通して見られる考え方や感じ方、行動のあり方について調査しました。このような調査方法を「参与観察法」といいます。この内容は「アウトサイダーズ」(1963年刊)という本にまとめられています。

り、逸脱者という存在は、その社会(この場合は学校)のルールによって生み出されるのです。これについて、もう少し考えてみましょう。例えば、学校では「授業中に落ちて座る」「クラスメイトと仲良くする」「授業を真面目に聞いて良い成績をとる」ことが望ましい、ということとは皆さんも分かると思います。しかし、「発達障害」の子どもたちは、障害の特性からこれらのことが苦手です。そのため、学校という社会の逸脱者と見なされることがあるのです。少子化の影響で、小中学校に通う子ども数は減っています。2020年の全国の子どもの数は約956万人で、10年間で100万人近く減少しました。一方、発達障害がある子ども数は、05年に「発達障害者支援法」が作られたことにより、年々増えています。06年には約1万2千人でしたが、20年には12万人を超えました。社会は時代の流れとともに変化します。そして現代は多様性や個性が重要とされます。国際化も進み、さまざまな背景をもつ子どもが増えています。そのような状況において、もしもかしたら時代に合わないルールがあるかもしれません。校則について考え直すのもいいのではないのでしょうか。(第3金曜に掲載します)